

これは、私が運営委員をつとめる社団法人経済同友会、学校と企業・経営者の交流、活動推進委員会の活動として行っている出張授業のためのレジュメです。

社会に出て働くことの意味を考える

- 働くとは、仕事を通して人様(世の中)のお役に立つこと。そのために中学校時代にすべきこととは。 -

株式会社 開倫塾
代表取締役 社長 林 明夫
(経済同友会、会員)

1. 学校の勉強は、社会に出て役に立つのか

- 役に立つ、学校での勉強や生活はすべて社会で役に立つ -

(1) 「早寝」「早起き」「朝ごはん」、「欠席」「早退」「遅刻」「忘れ物」「授業中のおしゃべり」「居眠り」なしは、社会に出て役立つ。

<理由>仕事をする上で最も大事なものは、元気に、就業時間前に職場に到着すること。事件や事故なく終業時間まで勤務すること。

(2) 「朝礼」「ホームルーム」「そうじ(特にトイレそうじ)」「学校行事(体育祭、文化祭、遠足、修学旅行)」「～鑑賞」「見学会」などは、社会に出て役立つ。

<理由>仕事をする上で大事なものは、「打ち合わせ(今までの仕事を振り返り、これからのことを話し合うこと)」や「整理整頓」「みんなで物事を成し遂げること」「集団で行動すること」。

(3) 「部活動(スポーツや文化活動)」も、社会に出て役立つ。

<理由> スポーツで大切なのは、ルールの中でプレイをすること。ルールを知ること。

きたない、見苦しいプレイはしないこと(フェアプレイ)。

チームプレイ(チームプレイとは、自分に与えられた役割は他人を頼らずに責任を持って果たすこと。仲間を信頼してプレイすること)。

練習をすればする程上手になることを知ること。

ただし、上には上がいるもので、いつまでも勝ち続ける訳ではないことを知ること。

スポーツを通じ、友だちができること。恩師ができること。いろいろな経験ができること。

(4) 学校で勉強する方法(学習方法)は、社会に出て役立つ。

- ・ 学習には3段階ある
 - 「理解」する段階 - 「うんなるほどよくわかること」
 - 「定着」する段階 - 「理解」したことが身に付いていること
 - 「応用」できる段階 - 「合格点が取れる」「社会に出て使える」こと

この学校での勉強方法は社会に出て役立つ。「授業中にノートを取ること」も社会に出て役立つ。

<理由> 仕事を覚えるときは、上司や同僚、お客様、ビジネスパートナーなどから教えてもらったことをひらすら「メモ」に取り続け、それを後で「理解」し、身に付け(「定着」させ)、仕事で使えるまでにする必要がある(「応用」)。

社会で生活する上で「自動車の運転免許」を取る必要があることも多い。資格が必要な仕事に就くときには、「資格試験」に合格する必要がある。「資格試験」の勉強は、学校でのテスト勉強と全く同じで、「教科書」を隅から隅まで「理解」し、すべて「定着(身に付け)」させた上で、合格点が取れる(応用)までにしなければならない。

学校での授業には、「予習」が欠かせない。予習は何のためにするか。教科書に書いて

あることを自分自身の力で「理解」し、「理解」できた内容をできるだけ「定着」させることが一つの目標。わからないことをはっきりさせて、問題意識を持って授業に臨むことが二つ目の目標。

* そのためには、わからない内容や語句を自分で調べる必要がある。辞書や参考書、インターネット、図書館の使い方を身に付ける必要がある。

* 仕事でも全く同じ。何が問題か、その原因は何か、とりあえずどうしたらよいか、将来はどうしたらよいかを自分の頭で考えること、問題意識を持つことが大事。

(5) 学校で勉強する教科は、社会に出て役に立つか - 役に立つ、すべて役に立つ -

<理由> 現代は、知識社会。小学校・中学校・高校・大学・大学院・専門学校・専修学校で勉強する知識はすべて必要。

現代は、国際社会化された社会。英語ができなければ話にならない仕事も多い。(英語と同時に国語も大事)。

現代は、高度情報化社会。コンピュータは必要不可欠(コンピュータが使いこなせない仕事にならないことも多い)。

2. 学校時代に身に付けておいた方がよい能力

(1) 一人で起床、身じたくを整え、食事をし、トイレをゆっくりすませ、忘れ物をせず、学校に遅刻しないように元気に登校する能力。

(2) 夕食を食べ、復習をし、風呂に入り、12時前には就寝する能力。

(3) 新聞を、毎日中学生なら1時間、高校生ならそれ以上、一面からなめるように毎日読む能力(気に入った記事は切り抜き、ノートに貼り付ける)。 - 「新聞を読んで考える」能力 -

(4) 本を、腰を落ち着けてゆっくり読むことのできる能力。

- 気に入った本は、5~6回ゆっくり読み込もう -

* 中でも気に入った文章は「書き抜き読書ノート」に書き写し、声を出して何回も何回も読んでみよう。

(5) 東京のよさ、墨田区のよさ、両国中学校のよさ、友だちのよさ、家族のよさを発見する能力。自分のよさを発見する能力を身に付けよう。

(6) 何時間か机に向かい、静かに勉強する能力。「自分自身の勉強の仕方」を見つけよう。「自己学習能力」

仕事を通して人様のお役に立つには、仕事をする上での能力が要る。そのための準備が、学校での生活や勉強。受験勉強も役に立つ。
--

3. おわりに - 私の好きなことば -

(1) 「ブルドック魂」(一度食いついたら離すな)中学校の担任の岡田忠治先生

(2) 「練習で泣いて、試合で笑え」「自他共栄」中学校の柔道部の椎名弘先生

(3) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう) 足利高校のマラソン大会の合い言葉

(4) 「よいことをして忘れること」京都一燈園 石川洋先生

(5) 「一生勉強、一生青春」...足利市の書家 相田みつを先生

(6) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」経営学者ドラッカー先生

* 私の仕事 開倫塾 塾長

マニー株式会社社外取締役(手術用縫合針製造)

宇都宮大学大学院工学研究科客員教授

栃木県社会教育委員

ラジオ番組「開倫塾の時間」(CRT 栃木放送)毎週土曜日 9:15 ~ 25 担当、21 年目

ご清聴を感謝申し上げます。

感謝